

氏名	小 出 やよい
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 1184号
学位授与の日付	昭和56年3月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者（学位規則第5条第2項該当）
学位論文題目	精神分裂病における血小板モノアミン酸化酵素活性 —主として反応速度論の立場から—
論文審査委員	教授 森 昭胤 教授 大月三郎 教授 水原舜爾

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

血小板MAO活性と精神分裂病の病因あるいは病態との関連性を解明するため、次の4項目について研究を行い、以下の様な結果を得た。

1) 先ずMAO活性の測定条件について若干の検討を行った。

この基礎的研究を基にして実際のサンプルでは、通常のMAO活性と共にMichaelis定数 (K_m) と最大反応速度 (V_{max}) を求めた。

2) 分裂病患者との比較のため、正常人におけるMAO活性を測定、検討した。

3) 分裂病多発家系における血小板MAO活性を測定した。その結果、分裂病者のMAO活性は、正常人のそれに比べて有意の差はみられなかったが、 K_m 値は高く、 V_{max} 値は低いという傾向にあった。一方、分裂病者家族のMAO活性は、正常人のものと非常に近い値を示した。

4) 少くとも一方が、分裂病を含む精神疾患を有する22組の双生児のMAO活性を双生児間 (intrapair) で比較した。その結果、血小板MAO活性の差はみられなかった。又22組のうち11組は分裂病-非分裂病のペアであったが、そのintrapairでも双方の活性値に差はなかった。一卵性双生児間 (intrapair) では、 K_m 、 V_{max} いずれに対しても高い相関がみとめられた。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は精神分裂病患者血小板MAO活性測定ならびにMichaelis定数 (K_m) と最大反応速度 (V_{max}) の検討を行い、分裂病者では K_m 値が高く、 V_{max} 値が低い傾向にあることなど、重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。